

V 現職教育

1 研究主題・副主題

学び合って のびゆく子の育成 —主体的・対話的で深い学びをめざして

2 主題設定の理由

今年度も研究主題を「学び合って のびゆく子の育成」とした。わたしたちは、一人一人の児童が友達の考えを認め、新たな発見をし、自分の考えの不足に気づき、お互いが関わり合いながらよりよい考えを見つけて「学び合う」姿を日々求めている。さらに「のびゆく子」とは、「自分で課題を見つけられる子」「進んで課題に取り組む子」「生活経験や既習の内容を生かす子」「粘り強く学習に取り組む子」ととらえてきた。

本校の児童は、活動的でエネルギーにあふれている。一方で興味のあることには意欲的に取り組むが、粘り強く取り組む姿勢が十分とはいえない。友達と協力したり、相手の立場を考えてよりよい行動をしたりすることが苦手だという面もある。

そこで30年度から副題を「主体的・対話的な深い学びをめざして」とし、授業研究に取り組んできた。「互いの考え方を交流し合い集団の中で思考を練り上げ、自分の考えを深めていく姿＝深い学びの姿」と捉え、児童の思考を促したり根拠に基づいた考えをもたせたりするための深めや問い返しの発問について研究を行うこととした。30年度の研究を通して児童は興味や関心をもって学習課題に取り組み、学びを深めることを楽しみ始めた。しかし授業を行った教師からは児童のつぶやきや発言から全体の思考を深めていくにはどうしたよいか、深めの発問や問い返しはどのようなものがもっと有効に働くのかなどの課題が出された。31年度の研究では前年度の課題を受け、児童の「主体的な学び」「対話的な学び」を意識しながら「深い学び」を生み出す教師の働きかけについて研究を行った。その結果、つけたい力を意識したねらいの設定、児童の「やってみたい」を引き出す導入の工夫、根拠をもとにして話し合わせる工夫、全体思考を生む問い返しや深めの発問の在り方など、「深い学び」につながる手立てが成果として上がった。一方で児童の意欲が授業の最後まで持続しない、交流場面において発言する児童が固定化してしまうという課題が見えてきた。また「書く」ことに対しても苦手意識をもつ児童が多いことがわかってきた。以上の課題から、目的を意識しながら自分の思いをもち、適切な言葉で話したり書いたりして相手に伝える「表現力の育成」が本校の児童に一番つけたい力になると考えた。

今年度は昨年度の研究で出された「表現力の育成」という課題に向き合いながら、「主体的・対話的で深い学び」を目指して授業研究を進めたい。「表現力の育成」のために、まず児童一人一人の「課題意識を持続させる工夫」について検証したい。児童が「知りたい」「聞きたい」「話したい」「考えたい」と思う課題とはどのような課題なのか、導入で芽生えた児童の思いを授業の最後まで持続させるにはどんな手立てがあるのかを考え、実践を重ねることで、上記の研究主題に迫りたい。

3 主題のとらえ

「学び合う」

友だちの考えを
認める

新たな発見を
する

自分の不足に
気づく

よりよい考えを
見つける

「のびゆく子」

自分で課題を
見つけられる子

進んで課題に
取り組む子

生活経験や既習の
内容を生かす子

粘り強く学習に
取り組む子

4 研究の仮説

副題を「主体的・対話的で深い学びをめざして」と設定する。本校では「主体的な学び」とは、学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって、粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ、振り返り、次の学習につなげることができるような学びと捉える。「対話的な学び」とは、自分で考えたことを友達と議論したり意見交換したりすることで新たな考え方に気がついたり自分の考えをよりよいものとしたりするような学びと捉える。「主体的な学び」をすることで、課題意識を持ち、自己を見つめ、自分自身の考えをもち、粘り強く取り組もうとするであろう。また、「対話的な学び」をすることで、友達の考えとの共通点や相違点が明らかになり、友達とのかかわりから考えを深めることができるであろう。

主体的・対話的で深い学びのある授業にするために、次のような重点を設定する。

5 研究の重点

重点：課題意識を持ち続けるための工夫

- ① 解決への意欲を引き出す課題を設定する
資料提示／必要感を生む問題場面／課題設定
- ② **ゴールの姿を想起させる**
ゴールの明確化／児童と共有
- ③ 学習の流れに見通しをもたせる
学習計画の提示／授業のパターン化／解決の糸口の提示／児童と共有
- ④ **全員参加を意識する**
全員挙手の発問／意図的指名／自分の考えをノートに書かせる／ネームカードの活用
- ⑤ 目的をもって交流させる
目的の明確化／児童と共有
- ⑥ **再思考の場を設定する**
深めの発問（見方を変える・学んだことを活用する）
- ⑦ ふりかえりの場を設定する
書く時間の確保／ふりかえりカードの活用
- ⑧ よい姿の価値づけを適宜行う

※①～⑧のうち、②④⑥について共通して取り組み、検証を行う。

※①③⑤⑦⑧については、授業者が選んで取り組み、検証を行う。

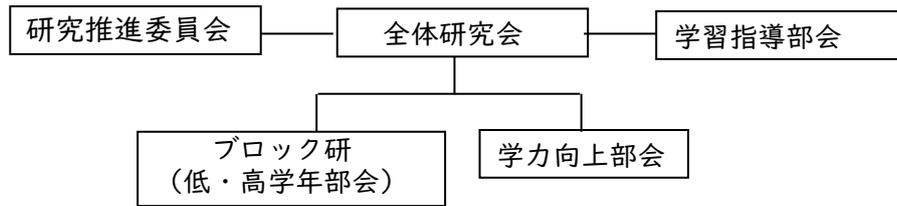
6 めざす児童像

副題の「主体的・対話的で深い学びをめざして」を低中高学年でとらえ、それぞれの発達段階から、めざす児童像として設定する。この児童像に迫るために重点を意識した授業展開を構成し指導していく。

低学年	友だちの意見をよく聞き、自分の考えを表現する子
中学年	自分と比べながら聞き、相手意識をもって伝え合う子
高学年	言葉や図を使って表現し、よりよい考えをみつけようと話し合う子

7 研究の進め方

(1)研究組織



・学習指導部会

学力向上を含め、共通実践など校内の学習指導全般について協議し、提案する。

・研究推進委員会

研究の方向・内容・進め方・研究構想図などの原案を作り、全体研究会および低・高部会に提起していく。

・全体研究会

研究の方向・内容・進め方や研究授業について協議し、学校研究についての共通理解を図る。

・ブロック研(低・高学年部会)

授業を中心に実践研究を図る。

・学力向上部会

各種調査（全国学力調査・県学力調査など）を分析し、対応を検討する。

各教科の知識・技能の習得を図る。

(2)方法

- ① 主題・副題を受けて、各部会で「めざす児童像」を確認する。
- ② 4教科で研究を進める。（特別支援学級は他教科でもよい）
- ③ 全員1回以上、研究授業を行う。
- ④ 低・高学年各1回（全体で2回／5月・10月）の全体研究授業を設定し、共通理解を深めながら研究を進める。全体研以外はブロック研とする。
- ⑤ 重点を意識した授業の基本スタイルを作成し研究の方向性について共通理解を図る。
- ⑥ 先進校視察の報告や講師を招聘した学習会を行う。

(3)研究授業計画

	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月
低学年	船登(算数) ※全体研	川崎(自立) 沖田(算数)			角谷(理科)	岡部(生単)	
高学年		中村(国語)	辰巳(社会)		林(社会) ※全体研	飯利(算数)	稲葉(理科)

8 研究推進年間計画

4	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の校内研究出発にあたって 研究主題・副題、研究の基本方針、研究組織、研究構想図等についての共通理解 ・児童の実態把握 ・低・高部会：各部会のめざす児童像の設定、研究授業計画 ・学習規律の確立 ・家庭学習の手引き ・学びのアイテム（算数）の作成開始 ・指導案の形式について検討 ・研究の重点の設定 重点の具体化に向けた取り組み ・重点を意識した授業の基本スタイルの作成
5	・提案授業（全体研）
6	・学習アンケートの実施
7	・1学期のふり返し
8	・全体研究会
9	・研究の方向確認
10	・全体研究授業
11	・学習アンケートの実施
12	・2学期のふり返し
1	・本年度の研究のまとめと研究集録の作成
2	・本年度のふり返し 来年度の方向づけ 学習アンケートの実施